

有宵会だより

第102号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸 1-64

九星と易断による

十二月・一月の運勢

気学では子の七赤

十二月七日（大雪）節入

ア 生氣

破		
6	2	4
5	7	9
1	3	8

天道

気学では丑の六白

一月五日（小寒）節入り

破 天道 ア

5	1	3
4	6	8
9	2	7

生氣



回顧

今年はコロナで始まり
コロナで終る。このよう
な書き出しで終るものと
思っていました。コロナ
禍は年を越し、二年に
跨がる強靱さがあります。

海外から新薬ワクチン
の閑静を競い合うニュー
スが往来、人類は待つば
かりですが、新薬の完成
の見通しは、火雷噬嗑の
上九を得ました。

噬嗑は頤中に邪魔あり
の卦です。九四が問題提
起するので、互体の九四
は副作用ではないかと観
て、まだまだ五カ月先で
はないでしょうか。

爻辞の「何校滅耳」は
直ぐには良い話題になら
ない厳しさです。

さてお正月が近づいて
きました。我が国の正
月風景はどうでしょうか。
雷天大壮の九三で、羊
が頭を生け垣に突込むと
いう。自粛より外出増で
自粛の禁を破る勢いがあ
り賛否が沸くところです。

一 白水星の人の運勢

十二月筮―水風井の六
四一月筮―水地比の六三
暮の忙しさ整理整頓、
家庭は平穩。どの仕事も
甘くなるので慎重に。財
布の管理シツカリ、体調
無事、風邪と足腰の疲れ。

正月の気分は爽やかで
団欒楽しく。前年の残務
は書類処理。予定した仕
事は中旬に変更、小さな
事件気にしない。不用意
出費、視力と虫歯用心。

二 黒土星の人の運勢

十二月筮―沢山咸の九四
一月筮―雷沢帰妹の九四
年末の用事は面倒なも
の急用から処理。仕事は
手順良ければ順調、金運
は停滞気味で慎重に。心
身の均衡と体力づくり。

元旦に一年の計画を立
てる。改善をする面あり
外面より内実優先、現状
仕事の不満、対人面の配
慮、どの環境でも家庭愛
を深めたし。健康第一。

三 碧木星の人の運勢

十二月筮―天地否の初六
一月筮―風天小畜の九二
時の過ぎるのが早い一
年の締め括る。仕事より
家庭優先、外部の用事は
中途半端にしない。資金
繰り安全、感染症に用心。

一月は平穩に過ごし楽
しく、本業は正確さと技
術など生かす。実家と親
子関係に恵む、心配事解
けて吉。小利を稼いで蓄
える。食と消化強める。

四 緑木星の人の運勢

十二月筮―兌為沢の九四
一月筮―雷火豊の九三
毎日の時間を生かす、
平和では平穩でも甘えず、
人に気遣い自分を戒める
家族との団欒は嬉しい。

疲労に休養と食欲が葉。
祝日の喜びと参拝が
福を呼ぶ。新たな気持ちで
チャンス待つ。長年の
夢を叶えてみよう。住居
の問題や金銭の運用など
検討。足腰と持病に用心。

五 黄土星の人の運勢

十二月筮―雷水解の上六
一月筮―天沢履の初九
多忙を極めるが意欲的
に対処、後から運がつい

てくる。負荷があるので
焦りと気苦労、方針を変
えてみる。胃腸に負担。
年を越えても今の道を
大事に、仕事は努力でこ
なす一步の前進で家庭の
値打ちがわかる。諸事に
復調の兆しで体調維持に
努め早目の手当をする。

六 白金星の人の運勢

十二月筮―水沢節の九五
一月筮―地山謙の六四
年末は手順さえ良けれ
ば順調。準備次第で成果
上がる。人とは折り合い
つけ信用高める。中旬に
朗報あり。気疲れ治す。

一年の方針を立てる新
年。今迄の実績を生かし
役立てる。仕事は結果を
出す私事は和を、愛情面
は豊かに表現、金運にツ
キを期待。体調良好なり。

七 赤金星の人の運勢

十二月筮―雷地豫の初六
一月筮―雷沢帰妹の九四
何かと忙しく振る舞う
人手を借りて対処、公私
に組織力を生かす。派手
さは禁物、貸借は不利益
雑用疲れと流感性に用心。

年がかわれば運氣も変
わるが堅実に。拡張路線
は避け安全に。投資など

八 白土星の人の運勢

無用で欲張らず、家庭に
憂慮、トラブル注意。仕
事は定着。体調安全策を。
十二月筮―雷火豊の初九
一月筮―風水渙の六三
活気があるので暮の始
末を早く。交際面で一言
多く修復、厄介事の依頼
は断るが家族への心遣い
大切。疲労ストレス対処。

一月は気持はすっきり
今年も頑張りがきく、マ
ンネリ部分の改善、幸さ
きの良いことあり、仕事
は気合が入り金策など遣
り繰りが付く。持病続く。

九 紫火星の人の運勢

十二月筮―雷山小過九四
一月筮―火地晋の六五
木枯らしが落着く、運
気も落着く。家業安心で
励む努力が実を結ぶ。対
人面の不満は水に流す。

金銭地味、体調回復へ。
新年は旭日の喜びで
縁起良し。問題が起きて
も好転、体裁を飾らず何
事も地味に処す。将来の
ことで思案。軽率な判断
をしない、体調は平穩。

福田 有宵

九月有宵会報告

河野 有泉

令和二年九月二十二日
 (火)秋分の日、足立区勤労
 福祉会館ブルミエに於い
 て、佐藤宗眩先生司会の
 もと有宵会例会が開かれ
 ました。

コロナの状況下でした
 が六十人弱の方にお集ま
 り頂きました。



福田理事長のご挨拶

今年は春からのコロナ

ウイルスが世界中に蔓延
 しております。これはこ
 の世に於ける天罰である
 わけです。この地球の中
 で人々が自由気ままに横
 行している歴史が続いて
 いる為、戒めを与えられ
 ているのが本当の姿です
 が

この様には受け止められ
 てはいません。

「怖い」とか「染る」と
 か人を人と見ないような
 仕草が伺えますが、これ
 はこれで人の然らしむと

ころです。この様な中で
 これだけの人に集まって
 頂きました。ありがとう
 ございます。コロナに負
 けず我々はこの学問を研
 究し、貫いてゆく姿勢は
 掛け替えのあるものと思
 います。

会報も百号を迎えまし
 た。佐藤先生を中心に
 筆者の御協力と皆様のお
 力添えのお陰です。良く
 ぞここ迄続いたという気
 持です。九月二十六日に
 松本楼で祝賀会の予定で
 したが、止む無く今日の
 秋分の日に変更となりま
 した。来春頃までコロナ
 は手が打てない状態の中
 で個々で自粛して頂き、
 くれぐれも充分な手当を
 して頂きたい思います。

私は三月頃から易占を
 とりコロナに関しては日
 夜研究しております。頭
 の痛い思いをしながら結
 論を導き出しておりますの
 会場でも易を出しており
 ます。

今回もこの会場でコロ
 ナの影響について、

山水蒙 六三

これは自粛して日常生活
 の中で気を付ければ無難
 である。白紙の状態で望
 んでいるということです。
 今後の影響について、

地水師 六五

これは外部の集会などで
 気を付ければ良く今のと
 ころは安全と予測してお
 ります。

本日は大丈夫と高らかに
 宣言します。御安心
 下さい。コロナの状況の
 中で占いがどう対処し生
 かされるか、又一人一人
 が日常生活でどう向き合っ
 たら良いか、課題を突き
 付けられています。皆様
 がそれぞれ人生の歩みを
 選んで頂ければと思っ
 ております。

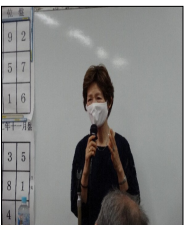
今回も内容の有る会を
 切にお願いして御挨拶と
 させて頂きます。



佐藤先生

創設以来応援して頂い
 ている先生方からの一言
 葉です。市川先生！三十
 分でも、何なら泊まり掛
 けでもどうぞ！（笑）

市川裕梨先生



百号記念おめでとうご
 ざいます。最初の有宵会
 を思い出します。先生を
 含めて十名足らずで秋の
 小雨の降る日でした。伊
 藤先生とヨーカ堂に花束
 を買いに走ったことを思
 い出します。三十年以上
 前から先生はお変わりが
 無いし心がお若い。私と
 夫にとっては掛け替えの
 ない存在の方です。

それはさておき、コロ
 ナを易で観てきましたが三
 月頃は予想できませんでした。一年以上はかか
 ると思いましたが結論が
 出ずもやもやしてしまし
 た。

夫とマスクを買うのに
 並んだり、粗悪品も買わ
 ざるを得ませんでした。
 世界中がオイルショック
 の時と同じでトイレレト
 ペーパーが無くなり、人
 間どんな時でも同じだな
 と思いました。

世の中は温暖化で自然
 が崩れている。便利さを
 追うと温暖化は促進され
 る。便利さに慣れて昔の
 状態には戻せない。十代
 の頃は涼しくて寝苦しい
 経験は無く、今はクーラー
 が無ければ眠れない。食
 べ物も添加物が入り腐ら
 ない。これも時代の流れ

で仕方ないだろうが……。
 百年前にスペイン風邪
 で世界中の人が亡くなり、
 そして今回もコロナで終
 息する見込みが無い。何
 でこうなるのか考えると
 大宇宙を司る神が人類が
 増えすぎて贅沢をして地
 球を壊してしまいう為に自
 然淘汰で弱い者を滅亡さ
 せているのではないかと、
 ノアの箱舟で最低の物だ
 けを持つて逃げた様にこ
 んな過酷な事はありませ
 ん。

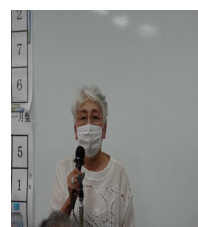
志村けんが何もわから
 ず死んでしまった様に自
 分の意志通りにならない。
 自然の摂理の恐ろしさを
 感じずにはいられません。
 この中で自分に何がで
 きるか、人と仲良くして
 平和を保ち感染しないよ
 うにするしかできない。
 自分の能力の無さを感じ
 ます。人はいつかは死ぬ
 のですが、思い残すこと
 の無いよう自分や他人の
 為に頑張つて感染しない
 ようにすることが義務感
 のように思います。

佐藤先生のコメント

ありがとうございます。大
 変素晴らしいスピー
 チでした。学者の説です
 が、明治過ぎ迄五十年に

一度は戦争があり調整さ
 れていたのでは無いかと
 いう説があります。今地
 球も何らかの形で変化し
 ているのは間違いありま
 せん。その中で私たちは
 生きていくのですから共
 存しながら前向きに進ん
 でいくべきと思います。

「では次は年の順です！」
 という佐藤先生のジョー
 クで



河野有泉

百号記念で佐藤先生は
 じめ関わった方々に御礼
 申し上げます。私もテー
 プ起こしをやらせて頂き
 ましたがすごく大変でし
 たので、佐藤先生のご苦
 労は如何許りかと思いま
 す。継続することは素晴
 らしいことだと思います。
 有宵会には途中から入っ
 たのですが、福田先生の
 ような方に巡り会えたこ
 とは人生の最大の喜びで
 す。主人は六十三才で亡
 くなりましたが尊敬する
 方が二人いて一人が福田
 先生でした。十年間力に
 なって頂きました。

さて、去年の私の占い

では今年は庚子の年で日本は生まれ変わる年ですが、経済がガタガタになると占いました。コロナは解りませんでした。コロナは目に見えない戦争のようなもので自然淘汰をされていると思います。大変な事態ですが人間はそんなに弱くなく、どうにか答えを出す力は湧いてくると思います。ただ二十代三十代の若い方は大丈夫と、緊張感が無いように思います。罹ったとしても誰のせいでもなく仕方ない。人間死ぬ時は死ぬと思いますが、現在この状況下で自分ができることを最大限にやっ

てゆくしかありません。これで私のスピーチは終わります。

佐藤先生！御苦労様でした。

佐藤先生のコメント

褒めて頂いて有難うございます。ただこれは私一人の力ではありません。家では家内が協力してくれました。今は股関節の手術で入院中です。チョンガです。(笑)

(その後手術は成功されたとのこと。愛妻家の先生もホッとされたことで

しょう。)

有難いことに今はデーター化してパソコンで送られてきます。福田会長だけかな。(笑)

でもこれはこれで味がありません。でもこれでもあります。テープ起こしはメチャメチャ大変です。皆様の力が有ってここまで来られました。でも『やれやれ！』という感じではありませんが。



伊藤璃香先生

この様な席よりお話しできるような者ではないのですが…。今「有宵会だより」誰が送って下さっているのかしら？私は四十年近く事務局長を一人でやっていたので少しも参考になればと思います。「誌友」というのを御存知ですか？「有宵会だより」だけ欲しいという方で大川法祥先生、木川隆正先生、角山浩三先生など優秀な方達です。お送りする時に一筆箋を書き入れて大変喜ばれま

した。そのやり取りの中から普通ではお付き合いできないような立派な方とお付き合い出来ました。木川先生は四国八十八カ所第十三札所大日寺のお坊さんです。六名で伺って特別に奥座敷に通された事。大川先生は堺市在住の方で文章が素晴らしい。有宵会にも来て頂きました。お帰りの時は話が弾んで間に合わなくなり電車に飛び乗ったことを思い出します。

次に郵便局の件ですが、窓口の人と仲良くなり安くやれる方法を教えてもらったり、町で会っても挨拶を交わして下さる様な仲になりました。

今の係は仕事をやりながらなので大変だと思います。私は夫が協力してくれました。皆様は話し上手で感心しました。本日は時間を二時から間違え、ボケが入ったのかしら。(笑) すみません。(いつまでも可愛い伊藤先生です)

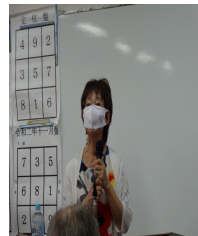
佐藤先生のコメント

伊藤先生の旦那さんの哲夫さんにはお世話になりました。会報御指導が

有ったからここ迄来れたと思います。『続けないと意味ないよ！』これ一言しか言わず。その次は『誤字脱字が多すぎる！』(笑)とお叱りを頂き、気を遣いました。でも気を遣っても結果は同じです。あの一言のお陰でここ迄来られたのだと思っています。

「頂いたお地藏さん」の本は大変貴重です。うちのお寺に寄贈しました。帰ったら哲夫さんにお線香あげておいてね！

笑



久保田恵都予先生

こんにちは。今日から百一号で新しいスタートかなと思います。私は平成十九年九月より平成二十九年九月八十二号担当しました。書くに当たって気を付けることは、私達の頃は手書きでしたし私は字が汚いので佐藤先生は御苦労なさったかなあと感謝しております。先ずテープを全部書き出してポイントをとさない

ように注意しました。全部書けば良いのではなく削る所は削り、前後の文章の流れを上手く継ぐことに気を使いました。私は文章力が無いのでテープを起こすのに大変苦労しました。特に医学用語などは解らなくて、先生にもう一度お聞きして理解してから書きました。

大変でしたがテープ起こしは二度勉強できありがたいお仕事だなあと思います

。最初の頃より会員も増え有宵会が充実してきている一つには「有宵会だより」が影響していると思います。佐藤先生が丁寧に纏めあげ、会が盛り上がっていくことと思います。先生のお力添えに感謝し御礼申し上げます。拙い挨拶ですがこれで終わります。

佐藤先生のコメント



話し言葉と書き言葉は違うので文章にする時は

大変だと思っています。前号の今中さんも素晴らしいとまとめてありました。疲れてくると文字が変わってきたり、ここで止めて明くる日続けたなあと思ひます。デジタル化ではその辺りの味は解らなくなり



顧問 菅原有恒先生

最近コロナを理由にサボっております。百号ご苦勞様です。十六年間コツコツ欠かさないうで継続する事が大事で一回でも休むと元に戻るのが大変です。製本されたのが素晴らしいですね。こうなると一号が見たいですね。創刊号は特に大事で先生の良い事、悪い事、二十五年間の浮き沈みが詰まっています。先生がどう乗り切ったか、「たより」に表れているはずだと思います。歴史を知ること、大事で一挙に二百号までの先を考える楽しみが

あります。その間に一年、一年があるのです。

作る方は大変で私も書道をやっておりますが、喋り言葉と書き言葉の違いがあり文章に起こすのは大変です。僕は十回位読んで十回勉強になっていきます。是非引き受けて頂きたい。又、研究発表で喋る事は準備が大変ですが自分の意志を伝える事も大事です。言葉の中に易学の理想・信念が少しずつ出ているそして親近感が生じてきます。これから二百号まで続けて頂きたい。よろしくお願ひ致します。

佐藤先生のコメント

激励のお言葉ありがとうございます。

一号〜五十号までどうしたの？福田会長の所にある…のは確かです…（笑）でもどこにあるのか…わかりません（笑）三ヶ月で十回くらい催促しています…（笑）いまだに出てきません（笑）いつか出てくると思いますが…それを楽しみに頑張っています。楽しみは先の方がいいでしょう。

取り敢えず五十〜百号までまとめました。（この時は佐藤先生のユーモアと間の有る喋り方に場内笑いに包まれました。筆者は文才がなく上手に表せませんのですみません！）



八川林加事務局長

いつもお世話になっております。本日は大盛況で立見が出てしまい、いかに事務局長の手配レベルが下がってしまったかと申し訳なく思っております。

私が「たより」を担当したのは平成十八年七月前からです。簡単にお引受けしましたがテープを一字一句起こすまでは先輩方と一緒になんですが、知識がないと先生方のおっしゃりたい事がよくわからない。テープに向かって「どうしよう」というのが最初の印象でした。そこで諸先生方の過去のまとめられたものを読み型を覚え、講師の先生の本を読んでから取り組み

ました。外部の先生の時は筆録に当たらずに良かった！と思った記憶があります。有宵会は本来ならベテランの先生が事務をやっても良いのに後進育成の為に若手層に大胆な人事体制をひくという斬新な会です。「手伝うよ」というボランティア精神の方々に運営しているのが特徴です。歴史を途絶えさせてはいけないと、ひしひし感じながら若手の仲間と切磋琢磨しながらやっている状況です。



泰山林翰先生

百号楽しみにしております。これを出すまでに御尽力頂いた先生方へありがとうございます。

『一号〜五十号も見たいよね』と話していました。記録の大切さを感じている所です。

昔公文書館長をやっていたとしてアーカイブスの大切さを伝える仕事をしました。ホームページにはデータが上がつて

いてこれは残ります。又冊子が有るといつでも取り出して見ることが出来ます。その大切さに取り組んできた方々の証しなんだろうと思います。貴重なものなのでこれからも取り組んで頂きたい。

現在公民館館長をやっています。年四回「たより」を出しています。一字一句の大切さを噛みしめてさらに有宵会の発展に少しでもお手伝いをしたいと思っております。



今中陽子さん

一年一回原稿を書かせて頂いております。何が大変かというと浅学なので先生のおっしゃることが正確に理解できているか？また省くのはどこを省いて良いのか解らない。

そんな訳で原稿が長くなつて枚数が多く有宵会の厳しい財政に負担を掛けてしまっています。佐藤先生申し訳ありません。でも勉強になっております。このようにバックナンバー

が有る冊子にして頂くと大変助かります。百号おめでとうございます。



福田有倭さん

いつも辿々しくて申し訳ありません。私は発送を担当しております。なるべく月の変わる前に発送しております。璃香先生のおっしゃる様に誌友の先生方には一筆箋を添えており御縁をいただいております。コロナで二回中止の際は福田先生の全員の立筈を郵送いたしました。がすべて届き安心いたしました。私も主人が手伝ってくれまして、この担当になり夫婦の絆が強くなったと思いますので皆様是非…！いつもありがとうございます。



金子知佳子さん

私は一ヶ月おきに皆様に会えるのを楽しみに有

宵会に来ております。十八年間毎年バスをチャーターして吉方方面の旅行をしました。楽しかったです。本日事務局の御苦労が良くわかりました。ありがとうございます。



森千紗さん

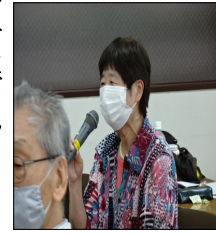
百号おめでとうございます。私も「たより」を書かせて頂きましたが、講義が理解できていないのに書かなければいけない状況は正直大変でした。何回もテープを聞いて解ってきて自分の為にはなつたと思っております。今は介護でなかなか参加できませんが、勉強は続けていくつもりです。ありがとうございます。



富澤容子さん

私は有宵会には半分位から入りました。先生大

好きで：何十年かしら：先生の三十代の頃からで、茅楊先生が生きている頃からです。一番古いのではないかしら：有宵会にはあまり協力できないですみません。



小宮有理さん

私も先生には長いですがあまり勉強しないで：先生のお顔を見て有宵会で話を聞くだけです。が、色々な事を教わり向上しているのではないかと思います。これからも楽しみにしております。



福田友嘉莉さん

前回の記念すべき百一号に私の目の話を載せて頂いてびっくりしました。ありがとうございます。皆様のお話を伺って御苦労がわかります。テープ起こしまとめるのは本当

に大変だったと思います。末永く二百号、三百号と：（笑）ありがとうございます。



渋谷由紀子さん

私は三・一一の時御縁を頂きました。先生は以前から存じ上げていたのですが、この勉強に入らせて頂いてただ感謝です。先生が事有る毎に『気学は人間学です。』とおっしゃって色々な方にお目にかかせて頂き、勉強させて頂いています。ありがとうございます。

福田理事長のお話

ただ今のお話堪能いたしました。原稿をまとめて頂いていた方々ありがとうございました。こうしてお祝いが出来る事は喜び一入です。平成十六年一月の創刊号から五十号までは私が預かっておりますが、書齋が大混乱を起こしまして：（笑）近いあるいは遠いうちに探しますのでお待ち下さ

い（笑）

会員、教室の方は同人として、『有宵会だより』だけの方は「誌友」として十名程度いらっしゃいます。木川先生は私の湯島聖堂の易学教室で学び、北海道出身、関西で修業され四国十三番札所大日寺の副住職。易友有志でお参りしております。西脇元人先生は少林寺拳法・武道の研究をされて福島県いわき市にお住まいです。

大川法祥先生は堺市の方で人相学・数霊を研究されています。誌友の方々に読んで頂くことは会報の値打ちが上がるのではないのでしょうか。

有宵会は平成八年八月にスタートしました。奇数月の二ヶ月に一回となるのは当時綾瀬と浦和と一ヶ月毎に交互に行っていました。が、綾瀬が主流になり今に至っています。有宵会は「研究会」「講演」「会報」が三本柱で五十名、六十名の方にお集まり頂いているのは望外の喜びであります。五十名集まる会はこの業界では有りません。例会の時に差し上げる会報が

一層の励みになったのではないかと思います。

その他吉方位の旅行、社会貢献として無料鑑定会、災害地の義援金などそれなりの努力を重ねてきました。この会が人の幸せと安心を目指し蓄積されてきているのではないかと思います。

地山謙 六二

流石だなあーと思いました「謙」は慎ましい、遠慮する面もありますが、言うべきこと

、学んだことをどういう風に表すかとも言えます。「名謙」人に伝える、同じように一緒に学ぶ姿勢を文字が表している。

「謙」は山の中に潜在している宝物です。会報は宝物ではないかと思えます。

佐藤先生の御努力とどのような心で皆様に伝えているかでは、

風沢中孚 六四

易の素晴らしさに惚れ惚れする程感心いたしました。その心を一つに集めて胸に抱き、味わいあるのが易の姿ではないでしょうか。

「月望に近し」満月に

近い、真心であり、大きな書類、一種の雑誌のごときを表しています。佐藤先生の努力と心をお伝えしていると思います。

来年二十五周年です。コロナが終息しましたら百号記念を再現し前に向かって行こうと思っております。先生方の成長も弛まぬ努力が実を結んだと思っております。

今日はマーク矢崎先生の御本をご覧下さい。お読みいただければ参考になるのではないかと思います。

佐藤先生、皆様ありがとうございます。

佐藤宗眩先生のお話

今日は先生から「姓名判断」の本を出席者全員にプレゼントを頂きました。ありがとうございます。

最後に私の回顧とこれからの事をお話しさせていただきます。十六年半で百回になりました。

しかし『終わった！』というのではなく前進の延長線上にあるという気持ちです。

思い起こせば綾瀬東口の喫茶店で六、七人集まっ

た時に「たより」を作ったかどうかということ。私が自分から申し出をいたしました。当時、事務局長の伊藤先生の「事務局便り」を引き継いだ形で。御主人の哲夫先生に三年位御尽力頂きました。何度グブアップしようかなあと思ったかわかりません。『続けなければ意味無いよ。』という言葉で今日まで続けられたと思います。頑張れる所まで頑張ろうという気持ちになれたのは哲夫先生のお陰と心から感謝致します。

最初のうちは『誤字、脱字が多い！』と度々指摘を頂きイライラしました。が間違えは直すしかない。家内が添削していました。『お前が悪いから恥をかくんだ！』と言いな

がら、でも今では逆にミスをみつけてくれてます。今回は手術のため私一人でやりました。（奥様ありがとうございます。私も一度お会いした事がありますが、私ごとにもとても腰が低く素晴らしい方だと思います）

私の主旨の「後ろを向かないで前に進む」が風沢中孚の卦を頂けたかなあと思います。「たより」は福田先生の月筮がここまで引きつけたのかと思います。私は空のスペースを埋める為に本を読み抜粋したりして書いたに過ぎません。皆様の原稿や原稿お起しの方々の御苦勞によりでき上ったのだと思います。ありがとうございます。

余談になりますが、私は四時に起きて六時の間に易をたてます。易は何かを教えてください。そして一日も欠かすことはなく私と皆様の為にブログを二十年間つけています。楽天でもこんな人はいないそうです。続ける事は私の取柄かなあと思います。

ここ四日間で同じ卦が出ました。不思議なことです。

十七日 火水未済

六五

〃

上九

〃

十九日

〃

初六

〃

二十日

〃

九二

そして一〇一号が出来上がりました。終わりは無いことは確かだと思います。私の話と「有宵会だより」についてこれで終わります。



後半にあたり菅先生が即興で漢詩を創作して下さいました。

賀有宵会短信一百号

発刊

創刊甲申庚子迹

継承二八渾身壁

易占特技使人謙

一百更踰還一百

創刊す甲申、庚子の迹

(アト)、継承す二八

(十六年)、渾身の壁

(ヘキ)、易を特技人をして謙ならしむ、一百更に踰(コ)えん還(マタ)

一百創刊号は甲申の年、

百号が庚子の年。

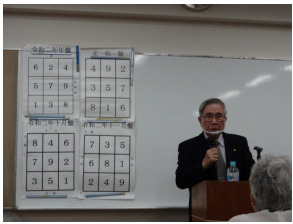
二八は十六年八卦で表す。

壁はすばらしい宝。特技

はお祝いのスピーチ。二

百号まで頑張る。

方位学の奥意 福田有宵



どの家にも入口があり奥があります。奥が見えるものはさっぱりしていいですが、奥が見えないものは好奇心をそそります。奥意は好奇心を頂けるテーマです。

開運ができるものは家相、地相、手相、人相、印相などどこを改めるかでその人の人生観や人間味がでます。変化、開運できる「相」には奥深いものがあります。気学では動くことによつて開運いたしますが、動かない場合はどうなるか？今日はこの辺についてお話致します。今年の開運歴は久保田先生が吉方位の日を書かれています。気学の開運法は「用気法」と言います様に、方位の奥意には「気」があります。先ずは「気の種類」について

陰陽の気―易では両儀と言います。九星を陰陽で表すと

陰―二、四、七、九

陽―一、三、六、八

五―陰陽交わる中間の要素があります。

二黒、八白は同じ土性でも陰陽が異なり、これを含ませた場合の違いはどの様になるか。

五行の気―木、火、土、金、水の気

八卦では八宮の気

十二支の十二方位の気

二十四山の方位の気

死気、殺気―使わないという原則だがどう扱うか。

春夏秋冬の気があり

三才(天、人、地)の気―

社会の中で「人」から与えられる気はどうか、

「地」の気は生命力で最も大切でこれから研究していかなければなりません。

気血―漢方の分野で

「気血」は生気で血液がどう循環するか。方位で

身体、心の問題を改善した時、この「気血」を頭

に入れて例えば九紫の方位を取るとどう作用するか、六白の方位を取ると

元気が出ると言われている

ますが、奥に何があるかを踏み込んで分析していきたいと思っています。

これらの「気」を受けて

身体、心の問題をどう解決するか、結果はでたのか、そこまで検証したいと思っています。

「気とは何か？」

外には神羅万象という

「気」があります。人の

生命に係わるものは「気」

を変えて、精神や気力であつたりします。天地に

生じる自然現象から命を受け動しんでいく。目に

見えないエネルギーが

「気」です。目に見えないといえは人間の運、生

気、活力などはエネルギーであり、「気」であります。

方位に出掛け「気」を受ける。エネルギーを受けるといふことです。

「学ぶ」と言うことは

初心者の方がどういうものかを考えることがスタートですが、良く解る

ようになると技術的な質問が多くなり本質を忘れる

がちになります。

例えば五行の気では木

性、火性は陽の気、ただ

し九紫は陰の気です。どの部分が陽で、どの部分が

陰かの組み合わせがで

ます。金性、水性は陰の気です。

土性は四行を繋ぐもので陰陽では中間の存在です。「四隅」の方位は和

合の要素があり

、九星と結びつき五行の

要素がどういう風に絡ん

でいるか、これは実例を

あげていく方が土用など

参考になると思います。

最終的には陰陽の「気」

の意味、表現、現象、陰

陽は何者なのかをポイントとしていきたいと思

います。

この会場に来ることも

コロナで：動かない方が

良いという「気」と、動くことによつて方位に変

化が生じ、良い変化を吉

の「気」として取るという二通りの考えが有りま

す。

祐気取りに於いても動

と静二者対立の要素があり

ます。

動―積極的に吉方取り

に動く。

静―動けない病人、老

人、幼年者の場合代理で

吉方取りをする。

ここに「動」と「静」

の二者対立要素の実例を

あげます。

【実例】

令和二年三月十六日に
水・土取りする。

昭和十五年三月生（六
白四緑）兌宮傾斜

末期癌で転移して肺癌、
余命三ヶ月と一月に宣告
された叔父の延命を願う。
その甥からの相談。

相談者は家庭問題を抱
えていて、歩いて四十分、
北方位の毘沙門天様まで
百日間の予定で二月から
日参を行っている。初め
て十九日目に問われる。
百日間のお水取りもして
頂いているのでこの水を使
つてもよろしいでしょ
うかと尋ねられた。叔父
から見東北の方位
、動線で七十五キロの山
奥の湧水とのこと。

水は十一時～十三時の
間の予定でしたが、実際
には十三時十分、土は十
三時二十分頃に取りまし
た。水は九日間取って九
日～十日で飲む。土は臥
所の下に毎日敷き取り替
えて結果三ヶ月延命され
安らかに逝かれました。
相談者も吉方位の水取り、
土取りをして良かったと
喜んでおられました。
叔父さんは六日巽宮で
年廻りは良いですが
、個人個人は違うので傾

斜や月命などでその特長
を捉えなければなりません。
その場所に行くこと
で場所の気と水と土と三
者一体で吉方取りしてエ
ネルギーを受けますが、
「静」の場合は行かない
ので場所の「気」を受け
ることはできない。本人
が行かないから気は受け
られないのか？

「気」というもの自体何
か解らないなど批判もあ
り、気は解りにくいので
今まで放っておかれた嫌
いがあります。

ただ今回のコロナも目
に見えないものに対して
人智を持って判断、戦い
をしなければなりません。
これは私達がどう生きる
かを問われているのです。

神社の水取りの場合、
この方法が一番良いのか、
地域で水の性質も異なり、
個人と団体で行った場合
作法も異なる。気に入っ
て慣れている場所と、初
めての場所ではどうか、
結果の出る人と出ない人
がいるのはどうしてか
、相談事の中で陰陽、相
生・相剋、五行、九星の
陰陽の絡みなど、内容に
ついて深く踏み込んで研
究を進めていきたいと思
います。実例に対しても、

ただ答えを出して終わる
のではなくその後の検証
をしていくような勉強を
少しずつしていきたいと
思います。



半田晴詠先生

カルチャースクールで
の仕事三時迄やつてお
りました。今日は百号記
念なので寄らせて頂きま
した。会報は佐藤先生の

御尽力で出来ているので
すが、私は平成十七年か
ら十二年間書記の仕事
やらせて頂きました。テ
ーブル起こしは大変な作業で
終わらせて頂いた時はほっ
といたしました。原稿が
有りそれを佐藤先生がま
とめられ立派な会報が出
来上がる流れですから、
皆様熟読して頂きたいで
す。
私は今生徒さんに教えて
後継者を残したいと思っ
ております。占いには気
学、私の勉強している子
平推命などあらゆる占法
があります。三十代は色々
やりましたが自分に合っ

たものをやるのが一番良
いと思います。

平成十一年当時人数は二
十名位で推薦者が無いと
入れなかった。最初ビク
ビクしましたが優しく迎
えて頂いて素晴らしい会
でした。当時、福田先生

も人数が少なかったのも
一人一人月筮の解釈を詳
しくして頂きました。今
は大勢の会員がいっぱい

るのでそこまでは無理と
思いますが、先生がポイ
ントをお話しして下さっ
ているのでそこから先は
御自分でお勉強したらよ
ろしいと思います。

今回の実例ですが、確か
に三月十六日は北東方位
でいいと思いますが時間
の十三時二十分は東北に
暗剣、破がついている。

もう少し深く時間もきち
んとみた方がいいと思っ
ます

。なぜ、偉そうに言うか
と申しますと私は方位取
りを四十二年間やりまし
た。帰ってから頭が痛かっ
たり、吐き気がしたり悪
い事も出ている。最初は
気にしませんでした。時
間が必要と気が付きまし
た。

先生は時間が無いので
そこまでお話ししてない

と思いますが、皆様はそ
の辺りのポイントを抑え
てお勉強した方がいいと
思います

。偉そうに申しましたが
今日はおめでとうござい
ます。 以上

本日は講義有り、スピー
チ有りで百号記念に相応
しい有宵会でした。何よ
り司会進行の素晴らしい

でユーモアに満ちそれぞ
れの思いに溢れた四時間
でした。会に出席するこ
とで福田先生の「気」に

触れ、皆様の「気」に触
れ、明日に向かう活力を
受けられたと思います。

どうぞ皆様！会場に足を
お運び下さることを願っ
ております。

祝会報100号記念誌に寄せて

佐藤宗眩

新たな元号「令和」を
迎えて二年目「有宵会だ
より」は発刊一〇〇号と
いう節目を迎えました。
この「有宵会だより」が
一六年七カ月の今回迄継
続されてこれたのは、先
ずもって今は故人になら
れました、伊藤璃香先生
のご主人故伊藤哲夫先生
の存在が大きく、第一号
より五年余りに亘り毎号

お世話になっておりまし
た。特に文章については
昔から私は苦手で話し言
葉と書き言葉の違いを懇
切丁寧にご指導いただき
ました。そのお陰があつ
て何とかここ迄やってこ
れたのだと痛感しており、
改めて先生には感謝を申
し上げる次第です、あり
がとうございました。

さて、加えて多くの皆
様の熱心な寄稿意欲があ
つたからこそとも思います。
この機関誌は、そのよう
な方々にご尽力によって
多くの情報、知識が提
供されて、世の中全体を
明るく、安心をもたらす
ことが果たされてきたも
のと考えています。これ
からもより一層その思い
を広く人々に、社会に浸
透するように真摯に努め
ていかねばなりません。

記念すべき一〇〇号の
発刊を通過点とし、次の
一五〇号、二〇〇号の発
刊につなげていくことが、
さらに大切に私たちに課
せられた大きなことであ
り、役割であろうと思っ
ます。そして天国におら
れる先生からは「まだま
だこれからですよ」との
声が聞こえてくる思いで
す。

さて、世の中の移り変わりは激しいものがあり、正に諸行は無常なり、その具体的な変化は、地域社会の崩壊、無縁社会や格差社会の顕現、自己責任論による人間の絆の衰退、少子高齢化問題など深刻な問題として現れてきています。私たちもその難題に取り組みその不安を軽減すること、その手立てを紙面を通して発信することも使命と考えています。

この様は現況の下に、加えてコロナ禍が蔓延し続ける中、多くの人々が不自由な生活を余儀なくされて何の変哲もない普通の生活や無意志国繰り返される日々がこれ程に有難く尊いものと実感する経験は滅多にないことでありましょう。目に見えないものや予測不可能な事態を前にすると誰でも不安や何か恐れる心が生まれる。これは自然で正常な心の働きでありましょう。忍び寄る不安と恐怖の中でどんな思いで暮らそうか、過ごそうかと考える日々が続いています。

は心の支えとなる聞き手として役目を果たして安心を感じてもらえ、支え合って行くことの大切さを伝えいくものです。人間は五感で物事を認識し相手を理解する、人との対面した時の気の交流も大切なのであり、テレワーク等々での対応の今の事態は仕方がないにしても、それが本来の生活様式、対人関係ではないことも改めて心しておかねばなりません。

多くの出来事はいつ遭遇するか予測などできません。私たちは予期せぬ世界に生きていることを自覚しつつ厳しく厄介なこと現在に遭つても「占い」を通して「大丈夫ですよ」と大きな安堵感とヒントを伝播していくことに力を注いでいきましょう。

これから精進してまいりますので読者の皆様にはこれからもよろしく御願い申し上げます。

NPO 岳易館・有宵会設立十五周年を迎えて

顧問 菅原有恒

十周年おめでとうござい
ます。

平成二十二年に設立され、

日比谷公園の松本楼でのお祝いの席で、首掛イチヨウを観ながら、お祝いの漢詩と祝辞を述べさせて頂いたことを思い出します。あれから十年、鑑定会こそ遠慮させて頂いておりますが綾瀬ブルミエの講座に通わせて頂いております。

牧野有峰先生も仙遊され、法人の幹部の皆さんも若返りました。小職も顧問として末端を汚させて頂いております。

振り返ってみると、この十年いろいろなことがありました。

先ず第一に、中国旅行を三回も行ったことでしょ。最初の平成二十四年の台湾旅行は、鳥ウイルスの影響で、中国曲阜への旅が、ドタキャンしましたが、福田理事長の「折角、日程を執つたので台湾に行ってみよう」との一言で、台北・龍山寺易占街にての易学交流、台中での忘れ物事件の合間に「吉原齒科」という意外な土産物屋兼レストランでの食事など。二回目は、平成二十七年に曲阜孔子廟を訪ね、杏壇の前で大勢の中国人に囲まれながらの立筮、東岳

泰山の登山、青島での周易交流。三回目は、平成三十年に大同の雲崗石窟、伏羲廟・北岳恒山での立筮と易学交流、など、普通の旅行では味わえないNPOならではの旅でした。

今後は、五山の残りの西岳華山、南岳衡山そして中岳嵩山の三山を巡りたい。

次に、周易を揮毫するのが小職のNPOならではの立場ですが、平成十八年に「周易写経展」を開催した折に、中国宣紙に揮毫した「楷書六十四卦帖」を書き終えていたが、平成二十六年に、写経用金宣紙に「隸書六十四卦幅」を完成しました。

今後、二回目の「周易写経展」を開催したい。

また、易学研究として、周易研究のほかに、書に關した「筆相学」を研究しました。昭和の初めには、筆文字に対する八卦を応用した「書相学」が主なものでしたが、現在では鉛筆・ボールペンなどの「筆跡学」が中心になります。性格、相性、など、これは「筮前の審理」に大いに役立ちます。

今後、周易とともに神髓を更に追及していきたい。

更に、十周年事業として、「易経かるた」が持ち上がりました。それに、小職が揮毫した「楷書六十四卦帖」を使ってい頂けるとのこと。この上ない喜びです。

そのことから、その教本として、「新周易」を作成することを思い立ちました。周易の教本は、加藤大學先生述の「易学大講座」がありますが、これはじっくりと机に向かつて勉強するためのものです。携帯用のものとして、やはり大岳先生校訂の「易経」（通称・黒本）があります。小職も、前述の揮毫の際の原本はこの本でした。この本には、経文だけでなく、十翼が白文として掲載されています。揮毫の際に、他の本と比べながら、訂正して揮毫しました。その結果を、「新易経」には反映させ、また、訳文も、十翼すべてに付けました。この本が、参考になれば幸甚に存じます。

これからの十年、皆さんのご活躍を期待しています。

**「NPO法人十五周年」
「有宵会だより」百号
達成記念祝賀会によせて**

大川法祥 先生（大阪・堺）

此の度「NPO法人岳易館・有宵会」として登記以来はや十周年。又、会として確かな学びの足どりが綴り重ねられた「有宵会だより」が百号を達成された由、これは偏に理事長福田有宵先生を筆頭として、有能な腹心、門人の方々の惜しみなき支えの賜物であったことと、心からの賛辞をお贈り申し上げます。

「十年ひと昔」と語り継がれていますが、私にとつてのこの十年は否めようも無く、瞬く間の歲月の流れでありました。福田有宵先生との御縁は、三十年を越えています。が、「有宵会だより」との拘りは十二年余になります。思いおこせば、初めて「有宵だより二十五号」が着便したのは、平成二十年（二〇〇八年）正月でした。当時、種々のプレッシャーが重なり、うつうつとした日々を過ごしていた私に、それは一条の優しい光となつて纏

わり、暖かな揺籃となつて傷む心の和らぎとなりました。その道程は今に至り、行き交う書簡、資料類は、ファイルに納められ、数冊となった「有宵だより」は、ずっしりと重みをもつて机上の本棚に鎮座しています。折にふれ見開き、その時々のお心に思いを馳せ乍ら、抑えきれぬ感謝の念をあらたにしております。又、永年にわたり、有宵会発展の為、福田有宵先生の良き右腕としてご活躍の佐藤宗弦先生との出逢いは、平成十六年十月二十四日、福井県名田庄村に於いて齋行された「安倍晴明公千年忌祭」に参列した時でした。平安時代、陰陽師として朝廷に仕え、安倍一族中興の祖、土御門家の祖として、後世に至った偉大な陰陽師、安倍晴明公の千年忌が清流に沿った丘陵に建立されている「土御門家墓前」に於いて厳粛な雅楽の調べと共に齋行されました。

この式典に、易学関係者として御招待頂いた、恩師 石本有孚先生のお供として、私も前日から入村。広い会場の一角で、古い鑑定を務めさせて頂きました。新聞、テレビ等、マスコミ関係の取材が大変で、村を挙げての誇り、一大イベントである事の熱気を感じました。当日は、土御門家御子孫の親族の方々や宮内庁からも数人が東京からお運びになり、古来から伝わる仕来たり通り、式典が齋行されました。丘陵の清冽な気の漂う中、弓を弾き、雅楽を奏でる厳粛な一連の所作をまのあたりにできた事は貴重な体験でした。石本有孚先生は、「『晴明公千年忌祭』とは、二度と無い意義深い式典だから・・・」と福田有宵先生にお声をかけられました。その折に、佐藤宗弦先生御同伴で参列されたのです。非才乍ら易学を学ぶ徒として参列できた私は、この厳粛な場での佐藤宗弦先生とのおめもじに、縁のいざないの不思議さを抱かずにはいられません。そして、有宵会にて、それぞれの立場でご活躍の先生方との温かい交流も有難く、今日に至る迄続く有宵会

との深いご縁に感謝しつつ、改めて御誠実な福田有宵理事長を要として拡がりゆく有宵会の更なる御発展を心よりお祈り申し上げます。

合掌——
たゆみなき 有宵会の弥栄や 有志集いつ 昂めゆかまし (法祥)

生涯学習

杉本侑穂

福田先生に導かれて十数年の月日が過ぎました。福田先生は、人生には、何一つとして無駄になる事は無いのですと、何時も言われています。易と占の世界が無限に拡大してゆく事が、わかり初めました。学びには、終わりや、尽きることがなく、生涯学習です。もっと深く深く学ばねばと思うことばかりです。福田先生のさりげないお話の中で学び、お花見をした時のことです。桜の声を聞いてごらんなさい。何を感じますか。私はその時、桜の息吹、力強さ、流動を感じました。有宵会の旅行先のお寺で

めずらしくお葬式にであったり、福田先生が亡くなった仏様は何のご病気で亡くなったと思いますかと、私にお尋ねになりました。私は、亡くなった方は、頭の中に潜血でおおわれているとお答えをしました。

葬儀に参列された方にお伺いをした所、私と同じ病氣持発性血小板減少性紫斑病で脳内出血で亡くなったことがわかりました。

福田先生は亡くなった方に、子供さんがいらっしゃる跡継ぎは大丈夫と言われました。

あの日の事は鮮明に覚えています。その時の偶然の出来事は偶然ではなく必然だったのかも知れません。

福田先生の授業は、私にとりまして大変尊い時間です。福田先生には、ご自身の体調に留意なさいまして、ますますお元気で、これからもご指導願います。心より感謝申し上げます。令和二年七月二十五日

【NPO通信】

次のかたがたより、有

宵会活動賛助のご寄付を賜りました。厚く御礼申し上げます。＊十月十六日現在

(敬称略・順不同)
大川法祥(九月・十月)・菅原有恒・仁科朱陽・小松輝子・阿部治・市川裕梨・山内視保子・天川鼓悠

＊本掲載は前後する場合がございします。ご了承ください。

◆次回・行事予定

◎【中止】江東区砂町文化センター「ウインターフェスティバル」

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、主催者側によるイベント中止となりました。

【事務局だより】

■次回例会のご案内

・日時／令和三年一月三十日(土)午後一時十五分～五時

・場所／足立区勤労福祉会館(綾瀬ブルミエ)第一ホール

・講演／福田有宵先生による「新年の運勢」ほか

＊ご講演者・内容は、予告なく変更する場合がございます。ご了承ください。

■九月度総会参加者
五十五名のかたがご参加されました。(懇親会は中止)

「今年も残すところあとわずか」―毎年の恒例句ではありますが、本年は、新型コロナウイルスの影響により、緊急事態宣言の発令、東京オリンピックの開催延期、マスク着用やアルコール消毒の徹底、外出自粛など、世界中で様々な行動が制限されました。

一方で、テレワーク、オンライン授業、電子決済といった、デジタルを活用した生活スタイルは急速に広まり、小さな子どもから大人に至るまで、その影響を受けています。

今年の事象を「時代の大転換期」ということばで表現される方もおられますが、占術の研究観点においてもコロナ禍の事象を見逃すことはできません。ウイリスという見えない相手との共存は容易ではありませんが、与えられた時間を大切に、新しい年に向けて前に進んで参りましょう。

事務局長 八川林加